

第120回（令和2年2月）情報処理技能検定試験（表計算）4級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

社員名	基本給	査定A	査定B
林 ひとみ	280,000	80	65
井上 一郎	240,000	85	90
久保田 恵	290,000	90	75
鈴木 正樹	310,000	75	60
山田 マナ	270,000	70	85
大川 政治	260,000	65	70
松山 雅子	320,000	60	95
大八木 誠	250,000	95	80

<処理条件>

- <出力形式>のような給料一覧表を作成しなさい。（ —— の部分は空白とする）
- 勤勉手当＝基本給÷1,000×査定A
営業手当＝200×査定B
支給総額＝基本給＋勤勉手当＋営業手当
- 合計・平均（整数未満四捨五入の表示）を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）

<出力形式>

給料一覧表

社員名	基本給	査定A	勤勉手当	査定B	営業手当	支給総額
合 計		——		——		
平 均		——		——		

第 1 2 0 回 (令和 2 年 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 3 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

C O	商品名	原価	売上数	売上額
101	A 商品	3, 591	197	846, 000
102	B 商品	4, 065	169	829, 000
103	C 商品	2, 684	215	723, 000
104	D 商品	3, 296	204	819, 000
105	E 商品	2, 853	210	708, 000
106	F 商品	2, 478	221	671, 000
107	G 商品	4, 607	152	861, 000
108	H 商品	3, 989	173	862, 000
109	I 商品	3, 700	180	812, 000

<評価表>

利益額	評価
146, 000 以上	Y
それ以外	N

<処理条件>

- <出力形式 1 >のような商品別利益額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 平均売価=売上額÷売上数(整数未満切り上げ)
利益額=売上額－原価×売上数
利益率=利益額÷(原価×売上数)(%の小数第 1 位未満四捨五入の表示)
- 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 平均売価の昇順に並べ替えなさい。
- <出力形式 2 >のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式 1 >

商 品 別 利 益 額 一 覧 表

C O	商品名	原価	売上数	売上額	平均売価	利益額	利益率	評価
(途 中 省 略)								
——	合 計	——			——		——	——

<出力形式 2 >

売上数の平均	
売上額の平均	
利益額の最小	

第120回 (令和2年2月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準2級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

番号	顧客名	CO	基準価額	口数
1	青木 京子	103	12,630	300,000
2	加藤 一郎	102	11,340	400,000
3	久保田 愛	101	10,130	500,000
4	中村 正樹	102	11,870	600,000
5	森 いずみ	104	13,110	400,000
6	清水 雄二	105	14,870	500,000
7	秋山 清美	104	13,650	600,000
8	江川 和男	101	10,470	800,000
9	鈴木 真弓	103	12,510	700,000

<銘柄テーブル>

CO	銘柄
101	アジアファンド
102	米国株オープン
103	バランス70
104	日経225
105	3資産ファンド

<割引額の計算式>

手数料	割引額
6,000以上	$9 \times \text{口数} \div 10,000$
それ以外	$8 \times \text{口数} \div 10,000$

<処理条件>

- <出力形式1>のような投資信託売却一覧表を作成しなさい。(――の部分は空白とする)
- 銘柄は<銘柄テーブル>を表検索しなさい。
- 約定金額＝基準価額×口数÷10,000
手数料＝約定金額×0.85% (整数未満切り捨て)
- 割引額は<割引額の計算式>を参照し、求めなさい。
受取金額＝約定金額－(手数料－割引額)
- 口数が70万以下で受取金額が70万以上に“*”の判定をしなさい。
- 合計を求めなさい。
- 基準価額の少ない順に並べ替えなさい。
- 投資信託売却一覧表の銘柄のセル証明をしなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。すべて¥表示とする。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 投資信託売却一覧表の受取金額の値を顧客別の横棒グラフにしなさい。
タイトルは“顧客別の受取金額”とし、凡例は“受取金額”とする。

<出力形式1>

投資信託売却一覧表

番号	顧客名	CO	銘柄	基準価額	口数	約定金額	手数料	割引額	受取金額	判定

(途中省略)

――	合 計	――	――	――						――

<出力形式2>

	約定金額	手数料	受取金額
平 均			
最 大			
最 小			

第120回 (令和2年2月) 情報処理技能検定試験(表計算) 2級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

商C O	商品名	原価	仕入数
101	商品S	5,972	603
102	商品T	5,643	587
103	商品U	4,605	724
104	商品V	5,421	670
105	商品W	6,097	356

※<出力形式1>で使用する。

得C O	得意先名	商C O	売上数
1001	大内企画	102	290
1002	S F マート	104	274
1003	鈴木商会	103	392
1004	ヤマモ商店	102	267
1005	中央商事	105	326
1006	小宮山物産	104	360
1007	満腹工房	101	263
1008	安心ストア	103	289
1009	北前水産	101	305

※<出力形式2>で使用する。

<値引率表>

定価	売上数	値引率
7,900以上	または 290以上	8.3%
それ以外		7.2%

<判定表>

売上数	売上額	判定
360 以下	かつ 220 万以上	***
360 以下	かつ 190 万以上 220 万未満	**
それ以外		*

<処理条件>

- <出力形式1>のような商品別定価計算表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 仕入額=原価×仕入数 手数料=仕入額×3.8% (整数未満切り上げ)
定価=(仕入額+手数料)÷仕入数×1.3 (整数未満切り上げ)
- 合計を求めなさい。
- <出力形式2>のような得意先別売上一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 商品名・定価は、商品別定価計算表を表検索しなさい。
- 値引率は<値引率表>を参照し、求めなさい。(% の小数第1位までの表示とする)
売価=定価×(1-値引率) (整数未満切り捨て)
売上額=売価×売上数
- 判定は<判定表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 売上額の降順に並べ替えなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 得意先別売上一覧表の商品名と判定のセル証明をしなさい。
- 得意先別売上一覧表の売上額の値を得意先名別の横棒グラフにしなさい。
タイトルは“売上額の比較”とし、凡例は“売上額”とする。

<出力形式1>

商品別定価計算表

商C O	商品名	原価	仕入数	仕入額	手数料	定価
(途中省略)						
——	合 計	——				——

<出力形式2>

得意先別売上一覧表

得C O	得意先名	商C O	商品名	定価	売上数	値引率	売価	売上額	判定
(途中省略)									
——	合 計	——	——	——		——	——		——

第120回 (令和2年2月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準1級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	社員名	区分	出発日	帰着日	契約数
101	下山 健二	Z	1/5	1/13	30
102	平田 敏子	X	1/7	1/13	40
103	小山田 勇	Y	1/9	1/19	32
104	南 まどか	X	1/10	1/20	50
105	大川 和男	Z	1/8	1/21	56
106	安藤 絵里	Y	1/13	1/21	37
107	山口 正勝	Z	1/11	1/23	38
108	杉浦 美保	Y	1/12	1/19	35
109	長谷川 光	X	1/15	1/24	43

※契約数のデータは<出力形式2>で使用する。

※出発日・帰着日はすべて今年とする。

<乗率テーブル>

区分	乗率
X	124%
Y	118%
Z	107%

<営業手当の計算式>

契約数	営業手当
40以上	1,280×契約数
それ以外	1,160×契約数

<評価表>

評価の条件	評価
出張手当が45,000以上かつ営業手当が45,000以上	A
出張手当が45,000以上または営業手当が45,000以上	B
それ以外	C

<処理条件>

- <出力形式1>のような社員別出張データ表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
※出発日・帰着日は、月日の表示であれば形式は問わない。
- 出張日数=帰着日-出発日+1
- 乗率は<乗率テーブル>を参照し、求めなさい。(％表示とする)
宿泊単価=6,470×乗率(10位未満切り上げ) 出張単価=3,890×乗率(整数未満切り上げ)
- 合計を求めなさい。
- <出力形式2>のような支給総額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 出張日数・宿泊単価・出張単価は、社員別出張データ表を表検索しなさい。
- 宿泊料=宿泊単価×(出張日数-1)
出張手当=出張単価×出張日数
- 営業手当は<営業手当の計算式>を参照し、求めなさい。
支給総額=宿泊料+出張手当+営業手当
- 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 出張手当の少ない順に並べ替えなさい。
- 支給総額一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- <出力形式2>の出張手当・営業手当を社員名別の積み上げ横棒グラフにしなさい。
タイトルは“社員別の比較”とし、凡例は“出張手当”、“営業手当”とする。

<出力形式1>

社員別出張データ表

CO	社員名	区分	出発日	帰着日	出張日数	乗率	宿泊単価	出張単価
(途中省略)								
—	合 計	—	——	——		—		

<出力形式2>

支給総額一覧表

CO	社員名	出張日数	宿泊単価	出張単価	宿泊料	出張手当	契約数	営業手当	支給総額	評価
(途中省略)										
—	合 計		——	——						——

<出力形式3>

出張日数が13未満の出張手当の最大	
契約数が40以上の支給総額の平均	

第 1 2 0 回 (令和 2 年 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 1 級問題

＜問 題＞

1. 下記の＜入力データ＞を基に、＜処理条件＞に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3 桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。（表の形式は問わない）
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は 3 0 分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

＜入力データ＞

外 C O	部 C O	納品数
101	11X	1, 000
101	12Y	2, 007
101	13Z	2, 691
101	14Y	1, 305
102	11X	3, 222
102	12Y	2, 880
102	13Z	2, 304
102	14Y	1, 935
103	11X	1, 107
103	12Y	1, 332
103	13Z	2, 799
103	14Y	2, 700
104	11X	1, 049
104	12Y	2, 247
104	13Z	3, 046
104	14Y	1, 571

＜外注先テーブル＞

外 C O	外注先名
101	内平製作
102	森テック
103	A B E
104	川田企画

＜部品テーブル＞

部 C O	部品名	材料単価
11X	部品 A	52
12Y	部品 B	64
13Z	部品 C	71
14Y	部品 D	83

＜加工単価テーブル＞

区分	加工単価
X	595
Y	628
Z	646

※区分は部 C O の右から
1 文字目とする。

＜諸経費の計算式＞

加工費	諸経費
100 万以下	加工費×0. 32
それ以外	加工費×0. 41

※諸経費は 10 位未満切り上げ。

＜評価表＞

納品数	諸経費	評価
2, 800 以下	かつ 40 万以上	*
2, 800 以下	かつ 20 万以上 40 万未満	**
それ以外		***

＜処理条件＞

1. ＜出力形式 1＞のような外注先支払一覧表を作成しなさい。（―― の部分は空白とする）
2. 外注先名、部品名はそれぞれ＜外注先テーブル＞、＜部品テーブル＞を表検索しなさい。
3. 加工単価は＜加工単価テーブル＞を参照し、求めなさい。
材料費＝材料単価×納品数（100 位未満切り捨て） ※材料単価は＜部品テーブル＞を参照する。
加工費＝加工単価×納品数
4. 諸経費は＜諸経費の計算式＞を参照し、求めなさい。
総支払額＝材料費＋加工費＋諸経費
5. 評価は＜評価表＞を参照し、求めなさい。
6. 合計を求めなさい。
7. ＜出力形式 1＞と同じ形式で、納品数が 2, 000 以下で諸経費が 200, 000 以上を抽出しなさい。
表題は“外注先支払一覧表（納品数 2, 000 以下・諸経費 20 万円以上）”とし、総支払額の降順にソートしなさい。
8. 外注先支払一覧表を基に＜出力形式 2＞のような処理をしなさい。
9. 外注先支払一覧表を基に＜出力形式 3＞のような処理をしなさい。（平均は整数未満四捨五入の表示とする）
10. 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）
11. ＜出力形式 2＞の総支払額を部品名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“部品別の総支払額”とし、凡例は“総支払額”とする。

＜出力形式 1＞

外 注 先 支 払 一 覧 表

外 C O	外注先名	部 C O	部品名	加工単価	納品数	材料費	加工費	諸経費	総支払額	評価
(途 中 省 略)										
――	合 計	――	――	――						――

＜出力形式 2＞

部品別集計表

部品名	納品数	諸経費	総支払額
部品 A			
部品 B			
部品 C			
部品 D			

＜出力形式 3＞

納品数が 1, 500 以上 2, 700 未満の件数	
外注先名が森テックまたは加工費が 100 万円以下の諸経費の合計	
部品 B 以外の加工費の平均	

第 1 2 0 回 (令和 2 年 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 初段問題

<問題>

1. 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

商CO	定価	在庫数
101	540	1,257
102	790	976
103	230	723
201	610	1,612
202	820	829
203	350	651
301	850	1,725
302	930	978
303	760	637

※<出力形式1>で使用。

商CO	得CO	売上数
101	12B	875
101	13C	382
102	12B	398
102	13C	432
103	11A	216
103	13C	399
201	12B	778
201	13C	736
202	11A	238
202	12B	539
203	11A	394
203	12B	217
301	11A	795
301	13C	621
302	11A	500
302	13C	196
303	11A	107
303	12B	431

※<出力形式2>で使用。

<分類表>

商CO	分類名
100番台	ポケット
200番台	リング
300番台	パイプ

<サイズテーブル>

型番	サイズ
1	A4タテ
2	A4ヨコ
3	B5タテ

<値引率表>

在庫数	商CO		
	100番台	200番台	300番台
1以上 1,000未満	2%	3%	4%
1,000以上	5%	6%	7%

<得意先テーブル>

得CO	得意先名
11A	中村総業
12B	下田企画
13C	ニシカワ

<割引額の計算式>

得COの右から1文字目	割引額
C	売上額×3.6%
それ以外	売上額×4.3%

※割引額は整数未満切り上げ。

<処理条件>

1. <出力形式1>のような商品一覧表を作成しなさい。
2. 商品名は、分類名・サイズの順に関数または演算子を使用して結合しなさい。(例 ポケットA4タテ)
※分類名は<分類表>、サイズは<サイズテーブル>を参照する。 ※型番は商COの1の位とする。
3. 売価＝定価×(1－値引率)(10位未満切り捨て) ※値引率は<値引率表>を参照する。
4. <出力形式2>のような売上額一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
5. 商品名、得意先名はそれぞれ商品一覧表、<得意先テーブル>を表検索しなさい。
6. 売上額＝売価×売上数 ※売価は商品一覧表を参照する。
7. 割引額は<割引額の計算式>を参照し、求めなさい。
請求額＝売上額－割引額
8. 合計を求めなさい。
9. <出力形式2>と同じ形式で、A4タテまたは売上数が500以上を抽出しなさい。
表題は“売上額一覧表(A4タテまたは売上数500以上)”とし、割引額の降順に並べ替えなさい。
10. 売上額一覧表を基に<出力形式3>のような得意先別計算表を作成しなさい。
11. 売上数・割引額・請求額は、基の表を集計する。
12. 構成比率＝請求額÷請求額の合計(％の小数第1位未満四捨五入の表示)
13. 割引額の降順に並べ替えなさい。
14. 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
15. <出力形式3>の得意先名別の売上数を折れ線、割引額を縦棒にした複合グラフにしなさい。
タイトルは“得意先別の比較”とし、凡例は“売上数”、“割引額”とする。

<出力形式1>

商品一覧表				
商CO	商品名	定価	在庫数	売価
(途中省略)				

<出力形式2>

売上額一覧表							
商CO	商品名	得CO	得意先名	売上数	売上額	割引額	請求額
(途中省略)							
――	合計	――	――				

<出力形式3>

得意先別計算表				
得意先名	売上数	割引額	請求額	構成比率
(途中省略)				